

壇上報告 1-5

川添 睡

#報告題目 社会モデル、あなた、わたし

#報告キーワード 障害の社会モデル 差配する政治 身体と経験の社会的再解釈

#報告要旨

今回私は「障害の社会モデル」について論じる、いや「論じない」。

私は社会モデルの主張と意義を強く肯定するが、同時に現在「社会モデル」の名でなされている説明が、健常中心主義社会の担い手たちを心情的にも権力的にも脅かさないように無力化された方向・範囲へと、反復される志向にあると感じている。

しかし私はそれを、社会モデルが”欠損・弱点・歪み・瑕疵を有し、専門家がそれを「検討し、癒す」というような研究へのあり方を一切拒否する。それは社会モデル”へと”封じ込められた問題の個人化であり、同時に私やあなたが社会モデル“を通じて”望み・行使してきたことを、自身から切断する行為の遂行だと考えるからである。

“社会モデルを”議論することを拒み、私やあなたが社会モデルをどう読み、どう反復・改変しているのか、したいか、すべきかについて主張したい。

私の感じる不満の一つ目は、社会モデルに対する「解説」の多数が、それ自体で社会モデル的な態度を裏切りながらなされている、という点である。

典型は、「障害は個人ではなく社会にある～」と言いつつ「なので、障害“のある人に対して”ワタシ達は～」といった、極めて個人モデル的なアプローチへと展開させる試みである。そこで出される「環境・障壁」とは、社会状況全体を再度誰か“の”帰属へと個人化させた捉え方に過ぎない。

私は社会モデルの意義をベクトルのよう捉える。

それは「個人」への帰属へと封じ込められがちな「問題」や「地位」を反転させ、より広い社会へ、つまり“障害される者として定位された個人”からその周囲の者へ、周囲からその周囲を取り巻く周囲の者へ、その周囲を規定する風潮 規範 制度へ…と、働きかけるべ

き対象をずらしていく指向、発想や態度として意義付けている。

この立場から、合理的配慮の要件とされる「個別性」(1)、また「みえない障害」「軽度障害」などの概念を部分的に批判する。

第二の不満は、社会モデルの「社会を問い直す」という理念にも関わらず、唱道者が健常主義社会において不公正にも専有（≒個有化）している資源や決定権に対しては、再配分や是正の議論を無力化する試みが頻繁にみられる。

『「声かけ・サポート」運動 (2)』を例とするが、企業や行政等の人的組織は唱道によって自身を「差配する役どころ」へと就任させようとする。自組織を他者の排除が横行する場ではなく、むしろ社会の他者を糺す規範役であると設定する。そして現在受益する以下の特権を他にひらくことを忌避する。

- ・ 予算、人の任命、報道に対する主体性に関する権限　そして
- ・ 「問題とはなにについてか」を設定する主導権　である。

この時社会モデルは、理解すれば「もはや差別者ではあり得ない」事を担保する役割が期待されている。そして社会は「ここではないどこか」として再設定される。

以上のように社会モデルの「健常者文明を否定する (3)」側面に対して徹底的な消去がある。その上でわたしは、

- ・ 資本主義という身近な個人化の作法について、研究という行為自体も含めて問うこと
- ・ 私たちを分断する階級の維持について批判的に向き合うこと
- ・ 私たちの身体と経験を（「健常」に相当するものも含めて）日常的に感じ取り、社会的な文脈で再解釈すること

が、障害という無力化に向き合う上で大切だと主張する。

「あなたはどのように考えますか？」

参考文献 (<http://web.archive.org/> 保存済)

1) <https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/jirei/>

2) <https://www.tokyo-cci.or.jp/about/koekake/>

3) <http://www.kumin.ne.jp/jago7526/aoishiba2.html> リンク切れ

倫理的配慮

例示された研究指針の内容を順守し、精神を尊重し、そこから発展する議論と対話に参加することを言明します。本発表には個人（自然人）を直接の対象とした調査や分析は含ま

れない予定です。が、それを筆者が発表を通じていかなる抑圧や搾取をも行い得ないといった「倫理的な担保」としては使えません。筆者は発表で引用した内容とその手法ないし解釈の効用について、当事者等より異議を受けて対話に応じる義務を負うと考えます。学会当日における男性優位、健常者優位の傾向を是正する模索として、今年もインターネット上にて発表に対する質問とコメントの事前受付を試みます。本発表の凡そ2週間前から大会開催の前日まで投稿フォーム <http://urx2.nu/ZEJr> を開設し、当日の質疑応答の時間は（最大）半分程度をその返答に充てたいと思います

